

**シビックプライドによる地域活性化の取り組み ～新宮市魅力発信女子部～  
～（和歌山県新宮市）～**

【和歌山財務事務所】

**1. はじめに**

地元の活性化のために何かできることはないだろうか。

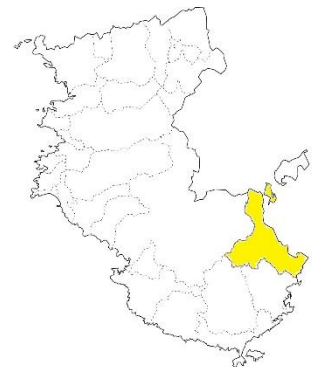
そんな思いを持った多くの方が地元を盛り上げようと活動されています。その中で今回スポットを当てるのは、女性目線で地元の魅力を発掘、発信している「新宮市魅力発信女子部」。地元に対して持つ自負や愛着（シビックプライド）で、熱い活動をしている方々の取組を紹介します。

**2. 新宮市の概要**

新宮市は和歌山県南東部に位置し、四方を深い森や熊野灘など豊かな自然に囲まれ、また世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する「熊野参詣道」や「熊野速玉大社」など多くの観光地を有し、世界遺産のまちとしても知られております。

かつては熊野速玉大社の鳥居前町として、熊野川の舟運を利用した木材の集積地としても栄え、熊野地方の中心都市として発展を遂げてきました。

しかし、近年では林業の衰退や大阪や名古屋など大都市圏から離れている立地もあり、ピーク時には4万5千人を超えていた人口が2016年には3万人を割るなど、人口減少や少子高齢化が進んでいます。また、2011年には台風12号が紀伊半島を襲い、熊野川が氾濫し幹線道路が寸断され、多くの家屋が浸水するなど大きな被害を受け、観光面でも大きな打撃を受けました。

**3. 新宮市魅力発信女子部の発足**

そんな中、従来とは違った目線で新宮市の魅力を発信し、少しでも市に訪れる方を増やそうと2014年に「新宮市魅力発信女子部」の前身となる「SNG4」が市の女性職員4名によって結成されました。ちなみに「SNG4」とは文字どおり、新宮（Shi-N-Gu）が由来です。

まず、「SNG4」は、旅行に対する女性の誘因力が大きいことに着目。マスコミや旅行者などに向けて女性目線に特化したニュースレターの発行を始めたところ、女性の目線にこだわった企画がよいと評価を受け、自治体の優れた広報紙や広報写真などを表彰する2015年「全国広報コンクール」の広報企画部門で入選しました。

また、新宮市に愛着を持つ女性でコミュニティを形成し地域活性に向けた活動をしていきたいと考えていたところ、国の女性活躍推進の政策の中に「女性が仲間を見つけて活動し支えあ

えるネットワークを支援する」とあったことも後押しとなって、2015年5月に「新宮市魅力発信女子部」が発足しました。

なお、「新宮市魅力発信女子部」は市のまち・ひと・しごと創生総合戦略の具体的施策である「市民とつくる魅力発信事業」の一つとして位置付けられており、国の地方創生関係交付金の支援を受けながら活動を進めています。

「新宮市魅力発信女子部」の主な活動目的は、新宮市の魅力的な「こと」、「もの」、「ひと」を発掘し発信することですが、なかでも「ひと（女性）」に着目したのは新宮市の魅力ある女性の活動を発信することで、新宮市が女性にとって働きやすい、住みやすい、幸せなまちであることを知ってもらい、将来的な定住につなげたいと考えたからでした。

「新宮市魅力発信女子部」は、事務局を新宮市役所商工観光課に置きましたが、メンバーは市職員に限定せず、市内在住または市内勤務の女性からも募集しました。これは、市の長期総合計画でのまちづくりの基本理念として「一人ひとりがまちづくりの担い手」と掲げており、職員と市民が一緒になって新宮市の魅力の発掘と発信をしたかったからでした。

発足当時のメンバーは、応募のあった25人と市職員10人の計35人。メンバーには女子部の活動イベントなどについて、SNSを活用した積極的な情報発信を求めています。

新宮市魅力発信女子部の活動は、基本的にはプロジェクトごとにチームを結成し、チーム単位で取り組んでいます。1つのチームの人数はほとんどが4、5人程度ですが、企画によっては1人で活動することもありました。

メンバーは無償で活動していますが、全員が愛着を持つ地元のために何かしたいという熱い思いをもって、精力的に数々の取組を行っています。今回はその中から4つの取組を紹介します。

#### 4. これまでの主な取組

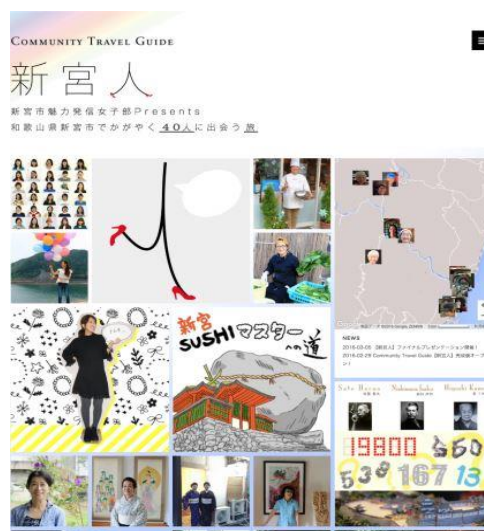
##### 1年目（2015年度）の取組

- ・「Community Travel Guide 新宮人」

「ひと（女性）」にフォーカスしたウェブマガジンの型、トラベルガイドブックで、新宮市でかがやく人々に出会う旅をコンセプトとし、新宮市で活躍する40人の魅力ある女性を紹介しています。（2015年10月にキックオフオープン、2016年2月に完全版をオープン）

「普通の観光とは違う目線で作成しようと思ったとき、やっぱり旅先で触れ合う『ひと』が重要だと考えました。」（新宮市商工観光課中濱氏）

この取組は多くのマスコミに取り上げられるなど新宮市のPRに一役買っただけでなく、メンバーの情報発信スキルを高めることができたことや、メンバー同士や取材先とのネットワークが構築され、以降、



「Community Travel Guide 新宮人」

活動の基盤となっているようです。

## 2年目（2016年度）の取組

活動2年目となる2016年度は、「新宮市の魅力を体験・体感できるアクション」の実践を目指し、アクションづくりを始めました。9月には、アクションのアイデアを出し合うために明治大学と協働してワークショップを実施、12月には「アクションアイデア発表会」を開催して、それまでに出されていた「26のアイデア」のうち、実現可能性の高い7つのアクションアイデアを発表しました。その後、プロジェクトチームごとにそれぞれの取組を実現させていきました。

### ・「新宮ハイヒールラン」（2017年3月5日開催）

文字通り、ハイヒールを履いて競争するイベントです。世界的には開催事例はあるようですが、日本では開催事例が見当たらなかったとのことで、おそらく「新宮ハイヒールラン」が日本初のハイヒールを履いて競争するイベントのようです。

このアイデアは「新宮市の女性はハイヒールを履いている人が多い」ことに気付いたのがきっかけとのことで、実際、新宮市は車社会でハイヒールを履いていても負担が少ないことや、かつて木材集積地として栄えていたころには船舶を通じて東京の流行がいち早く入り、早い段階でハイヒールが広まったことなどから、新宮市では今でも多くの女性がハイヒールを愛用しているようです。

しかし、実施に至るまでは多くの課題があったそうで、そもそも「新宮でなぜハイヒールランなのか」といった声や、特に男性から「ハイヒールで走ると危ないのでは」といった声があったそうですが、これらの声に対しては説明を尽くすことやヘルメット等の安全対策を行うことで乗り越えたとのことです。

次に、会場については、人通りの少なくなった商店街の新しい空間活用を図るため、仲之町商店街とし、商店街の協力を得ながら企画を進めていきました。



盛り上がりを見せるハイヒールラン

開催当日は、隣接する熊野市や田辺市のほか遠く和歌山市からの参加もあり、計15チーム（45名）が参加しました。また、800名を超える観客が集まるなど大いに盛り上がりを見せ、参加者からは次回も参加したいという声や、協力してくれた方々からもこの1回で終わらず、続けてほしいとの声をたくさんいただいたといいます。

一方で、初めての開催ということもあり、運営していく中で多くの改善すべき点も見つかったようで、今回見つ

かった問題点をどのように解決していくか、今後の定期的な開催を目指し、次回開催に向けてすでに始動しています。

・「Shingu Picnic」(2017年3月18日開催)

通常のキャンプよりも食事、サービスなどが豪華な「グランピング」を開催するというものです。本来グランピングは宿泊を伴うものになりますが、宿泊となると参加へのハードルが高くなってしまおうと考え、昼開催の日帰り形式をとっています。メインターゲットが若年層の女性であったため、一般の参加者とは別に、インスタグラムでの情報発信を条件に特別価格でコース料理とワークショップを体験できるモニター参加も募集しました。

計画から実施までの間が約3ヶ月しかなかったため、打ち合わせも深夜までおよぶこともあったようですが、自然の中で、新宮市のお店や地元食材など新宮市の魅力にたっぷり触れられる機会とすることができ、参加者からは次回開催を要望する声が多く聞かれるなど非常に好評であったとのことでした。



「Shingu Picnic」での女子部メンバー

・「新宮に旅するブックカバー」



様々な名所やイベントをブックカバーにしています

新宮市の名所やイベントなどをブックカバーにデザインしたもので、2017年1月に明治大学で実施された熊野学フォーラムの会場で試験販売を行ったところ、売れ行きは好調だったそうです。今年度中の一般販売を目指しており、収益を出せるようにしていきたいとのことでした。

## 5. 今後の展望

「新宮市魅力発信女子部」の活動も今年で3年目に入ります。これまでの活動が多くのマスコミに取り上げられたことや、取組を続けてきたことで男性も含め地元の人々による支援の輪が徐々に広がっているといえます。

今年度の目標をうかがうと、「活動の自走化が目標」(中濱氏)といえます。これまで地方創生関係交付金を利用して活動を行ってききましたが、いつまでも交付金に頼るわけにもいかず、また資金がなくなったからといって、せっかく成果も出てきているのに活動が出来なくなると

いうことを避けるために、クラウドファンディングによる資金の調達など自分たちの活動資金は自分たちで何とかしなければならないと考えています。

そして、「新宮市魅力発信女子部」の取組を通じて、新宮市にはこんなに魅力的な「こと」、「もの」、「ひと」があることを知って、体感してもらうことで、より多くの女性に新宮市に足を運んでもらい、将来的には定住につなげたいと考えています。

## 6. おわりに

今回、取材の後に「新宮ハイヒールラン」の打ち合わせがあるということで同席させていただきました。反省会ということでしたが、次回開催案まで話がおよび遅くまで議論が続くなど、メンバーの取組への熱意を生で感じる事が出来ました。熱意があるがゆえに気軽に参加するのははばかれるのでは、とも思いましたが、中濱氏は「ちょっと手伝うだけでもいいし、こういうことをしているという情報を知って発信してもらうことに大きな意味はある。」とおっしゃっていました。

「市民とつくる魅力発信事業」として活動を始め、その活動の幅を広げてきている「新宮市魅力発信女子部」。新宮市の活性化のために活動するメンバーたちこそ「新宮市で活躍する魅力ある女性」であると感じました。

みなさんも是非、魅力ある新宮市の女性の活動を知って、新宮市で体感してみたいはかがでしようか。



### 【関係先リンク】

新宮市役所：<https://www.city.shingu.lg.jp/forms/top/top.aspx>

Community Travel Guide 新宮人：<http://communitytravel.jp/shingu/>

※掲載した情報は、2017年5月時点のものです。